

老年病科メンバー紹介 (2025年4月)

教授

小川純人 (診療科長)

日本老年医学会 (幹事・指導医・老年科専門医)
日本認知症学会 (指導医・認知症専門医)
日本動脈硬化学会 (指導医・動脈硬化専門医)
日本骨粗鬆症学会 (理事・認定医)
日本骨代謝学会 (理事)
日本サルコペニア・フレイル学会 (理事)
日本性差医学・医療学会 (理事)
日本メンズヘルス医学会 (副理事長)



講師

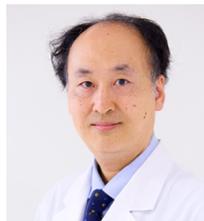
石井正紀 (外来診療担当副科長)

日本老年医学会 (老年科指導医・専門医・代議員)
日本内科学会 (内科指導医・認定医)
日本呼吸器学会 (呼吸器指導医・専門医)



東浩太郎 (入院診療担当副科長)

日本内科学会 (総合内科専門医・指導医)
日本老年医学会 (専門医・指導医)



矢可部満隆 (医局長)

日本老年医学会 (専門医・指導医)
日本認知症学会 (専門医・指導医)
日本内科学会 (総合内科専門医)



助教

七尾道子 (副医局長)

細井達矢 (副医局長)

松本昇也

高田和典

小室絢 (東京大学保健・健康推進本部 (保健センター))

大浦美弥 (東京大学医学部附属病院国際検診センター)

ホームページ: <http://geriatrics.umin.jp/>

見学は随時可能です。お気軽にご連絡ください。

老年病科医局長 矢可部 m-yakabe@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

老年病科 カリキュラム紹介

当科の概要

・超高齢社会において、multimorbidity (多疾患併存)、ポリファーマシー (多剤併用) の患者が増加しています。高齢者は多彩な症状を呈しますが、中には食事摂取量低下のように原因が複数の臓器にわたるもの、社会的・環境的要因が関与するものがあり、臓器別・疾患別の専門診療では対応できないことも多いです。

・老年病科は病気よりも病人を治し支えることを目指し、総合的・全人的医療を行います。そのために高齢者総合機能評価 (CGA) を実践し、薬剤師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、地域医療連携部などを含む多職種で連携し、社会的・環境的要因にも配慮したチーム医療を実践します。

・高齢者でよく見られるフレイル、サルコペニア、老年症候群などの診断・介入を行い、健康寿命の延伸を目指します。

・認知症、骨粗鬆症、睡眠時無呼吸症候群を専門的に取り扱い、抗アミロイドβ抗体によるアルツハイマー病の治療も行っています。

・食思不振・体重減少精査入院、嚥下機能評価も行います。

専門医について

老年科専門医は、内科専門医制度のサブスペシャリティとして認定されています。

複数専門医を習得可能です (老年科専門医 + 循環器内科専門医/呼吸器内科専門医/糖尿病専門医/認知症専門医など)。

対象疾患

<急性期疾患> 高齢者救急全般、救急部・ICU との連携

<脳神経疾患> アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、正常圧水頭症、進行性核上性麻痺、パーキンソン病、軽度認知障害、脳血管障害など

<呼吸器疾患> 睡眠時無呼吸症候群、肺炎、COPD、喘息、肺癌など

<循環器疾患> 心不全、冠動脈疾患、不整脈、肺血栓塞栓症、高血圧症など

<腎臓疾患> 慢性腎臓病、腎代替療法、尿路結石・感染症など

<消化器疾患> 消化管出血、胆嚢炎、消化器癌など

<代謝疾患> 糖尿病、甲状腺疾患、電解質異常、骨粗鬆症など

<感染症> COVID-19, 蜂窩織炎など全般

<精神疾患> せん妄、認知症周辺症状 (BPSD)、うつ病、不眠症など

<緩和医療> 疼痛管理、緩和医療・ケアなど

<漢方医療> 虚証など

<その他> サルコペニア、フレイル、低栄養、嚥下障害、褥瘡、リハビリテーションなど

指導体制

・助教 (主治医)、特任臨床医、専攻医、研修医から成るチームの一員として入院患者の診療に当たります。毎日のチームカンファ、毎週の病棟医長・呼吸器・多職種連携カンファで上級医の指導を受けます。

・毎週水曜日の午前中は病棟カンファ・教授回診を行います。

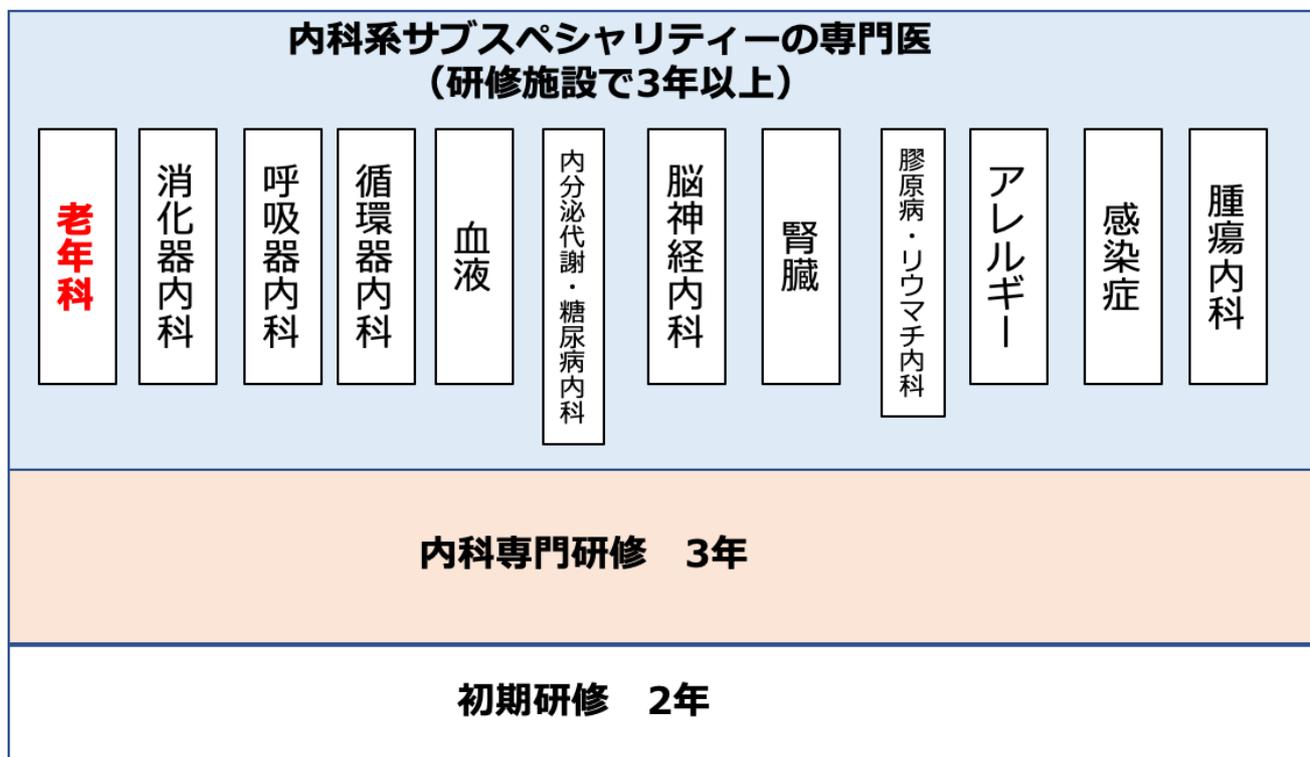
・週1回、外来の初診担当医として診療に当たり、上級医の指導を受けます。

- ・上級医の指導の下、学会発表、症例報告の機会もあります。
- ・月1回のクリニカルカンファレンス、論文抄読会、研究のカンファレンスへの参加も可能です。

当科の研修で身につけられること

- ・**老年科専門医**を取得して全人的医療を実践できるとともに、**サブスペシャリティ領域の専門医等も取得**して専門性も発揮できます。これにより、老年病科の中で各専門分野をリードする存在になれます。
- ・CGAを実践し、退院後の療養方針まで見据えた治療計画を立てられます。
- ・認知症の診断、治療、ケアについての専門性を得られます。
- ・総合内科のように臓器ごとに多彩な疾患を経験し、multimorbidityを有する患者を体系的に考察、介入することができます。
- ・エンドオブライフの患者の方針決定（人工栄養のあり方を含む）、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を学べます。
- ・各種エコー、腰椎穿刺、CV挿入、嚥下内視鏡などの内科全般の手技を学ぶ機会もあります。
- ・希望者は大腿骨骨折ボードに内科医の立場で参加し、多職種連携チーム医療・ケアを経験できます。

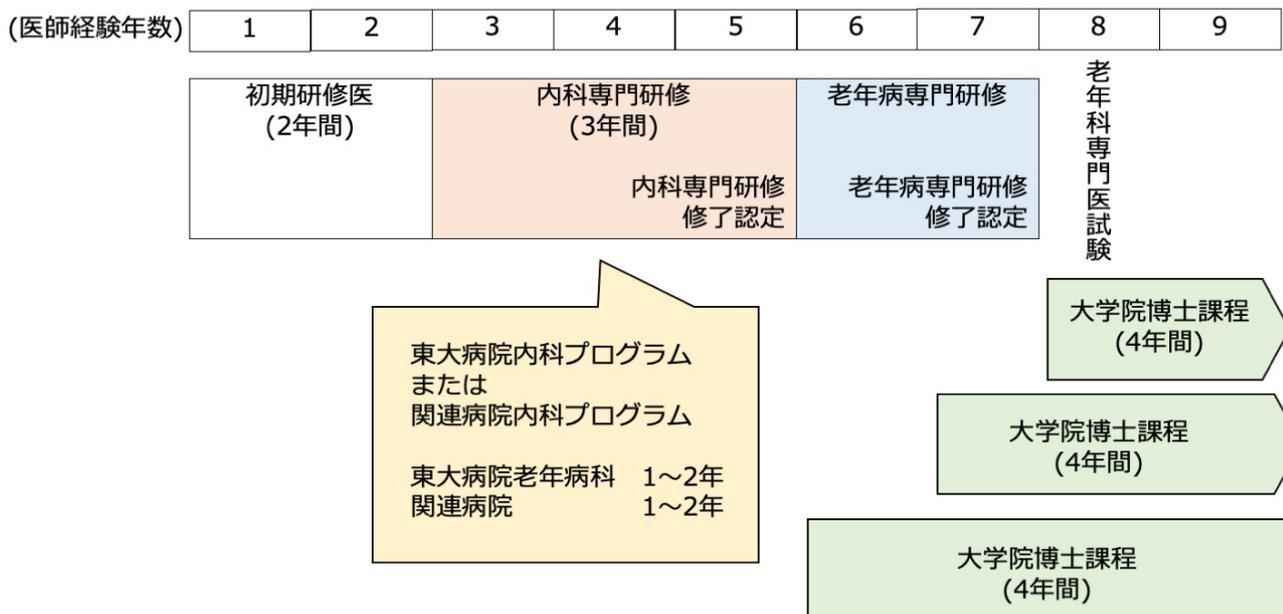
●内科専門医制度の二段階制



2025 年度東京大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム
<https://igaku-kyoiku.m.u-tokyo.ac.jp/program.html>

(東大 + 内科専門研修 で検索)

新内科専門医制度における老年病専門研修プログラムの概要



老年科専門研修施設

- 東京都健康長寿医療センター
- 関東中央病院
- JCHO 埼玉メディカルセンター
- 虎の門病院
- 自治医科大学附属さいたま医療センター
- 国立長寿医療研究センター病院
- 国立病院機構 埼玉病院
- 藤枝市立総合病院
- 上尾中央総合病院
- など

内科専門研修施設

- JCHO 東京新宿メディカルセンター
- JCHO 東京山手メディカルセンター
- 東京都立広尾病院
- 国立国際医療研究センター
- JR 東京総合病院
- 横浜労災病院
- 東京都立墨東病院
- 埼玉医科大学総合医療センター
- 焼津市立総合病院
- など

大学院卒業後の進路

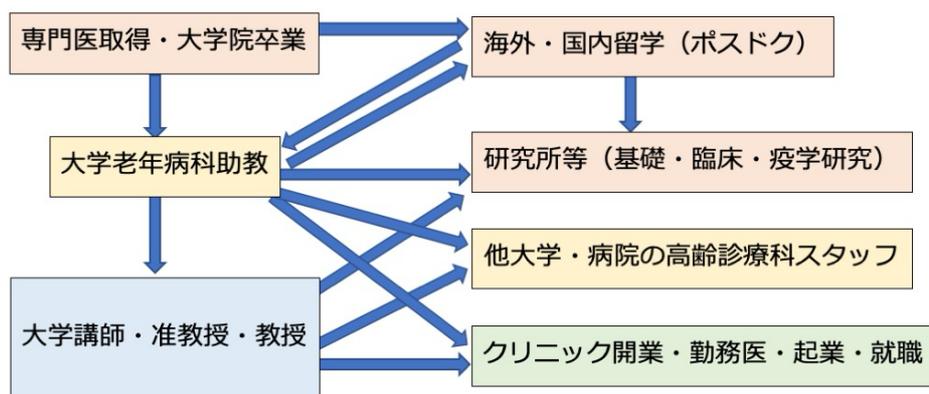
- ・東大老年病科医局員・スタッフとして東大病院勤務
 - ・他病院就職
 - ・内科診療所、在宅医療クリニックの開業
 - ・海外留学（カリフォルニア大学サンディエゴ校、カリフォルニア大学アーバイン校、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ハーバード大学、スタンフォード大学、チューリッヒ大学医学部、ソーク研究所、ワシントン大学、ホワイトヘッド研究所、マンチェスター大学、ミュンヘン大学、マギール大学、ノースキャロライナ大学、ブリティッシュコロンビア大学、ロンドン大学）
 - ・国内留学（国立病院機構 東京病院、理化学研究所生命システム研究センター、京都大学再生医科学研究所、東京都健康長寿医療センター研究所、国立がんセンター研究所、熊本大学発生医学研究センター、東京都医学総合研究所）
 - ・研究所勤務
 - ・厚生労働省・内閣府などでの政策立案
 - ・民間企業就職
- など

当科医局員および OB・OG の所属先等

東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
東京大学 医学教育国際研究センター 教授
東京大学 呼吸器内科 教授
東京大学大学院 在宅医療学講座
東京大学 国際検診センター
東京大学 保健・健康推進本部（保健センター）
東大病院 認知症センター
東大病院 リハビリテーション科 教授
杏林大学医学部高齢医学 教授
国際医療福祉大学 老年病科 教授
国際医療福祉大学 臨床医学研究センター 教授
東京科学大学 総合診療科 教授
北里大学 循環器内科 教授
自治医科大学 呼吸器内科 教授
順天堂大学 呼吸器内科 教授
順天堂大学 公衆衛生学 教授
順天堂大学 病理・腫瘍学 主任教授
順天堂大学 遺伝子疾患先端情報学 客員教授
近畿大学 リハビリテーション医学 教授
秋田大学高齢者医療先端研究センター センター長・教授
大妻女子大学家政学部食物学科 教授
広島大学 医系科学研究科 共生社会医学 教授
東京医科大学 呼吸器内科 教授
国立障害者リハビリテーションセンター総長
虎の門病院 顧問

虎の門病院 高齢診療科
 虎の門病院 健康管理センター 医長
 東京都健康長寿医療センター 理事長
 東京都健康長寿医療センター センター長
 東京都健康長寿医療センター 高齢者診療科
 東京都健康長寿医療センター 呼吸器内科部長
 東京都健康長寿医療センター 研究部長
 国立病院機構 東京病院 病院長
 関西医科大学 附属生命医学研究所
 藤田医科大学 精神・神経病態解明センター 神経再生・創薬研究部門 講師
 慶應義塾大学 再生医療リサーチセンター
 日本薬科大学 教授
 横浜市立大大学 呼吸器内科 教授
 岡山大学 副学長
 筑波大学 教授
 山王病院 内科副部長
 国立長寿医療研究センター
 国立病院機構 総合研究センター長
 関東中央病院
 浴風会病院
 厚生労働省
 内閣府 健康・医療戦略推進事務局
 文部科学省 医学教育課
 宮内庁
 など

モデルケース



老年病科専門研修 → 関連病院で臨床医、老年病科客員研究員として研究を行いながら論文博士を目指す

他科専門研修 → 大学病院老年病科スタッフ

研究職、企業・官公庁、休職 → 大学老年病科で再研修